

平成28年 2月 定例会

◆（淵上陽一君）最後に、**県北地域を結ぶ幹線道路の整備について**質問いたします。

昨年10月、県は、地方創生の基本的計画となる熊本県人口ビジョンと熊本県まち・ひと・しごと創生総合戦略を発表し、これを受けて、各市町村においても順次策定が進められているところであります。

県の総合戦略では、将来予想される大幅な人口減少をペースダウンさせることを目標に、さまざまな施策を推進すると掲げられており、国を挙げての地方創生総合戦略が、本県においてもいよいよ本格展開されているわけであります。

この重要なときに当たって、私は、人口減少という前提を、単に社会全体のスケールダウンイコール予算の削減という観点だけにとらわれず、よりコンパクトで、より効率的な暮らしや経済活動をつくり出すためには何が必要なのかという視点に基づく判断を、徹底して行ってほしいと願うものであります。

私が住む県北地域においては、菊池川流域に伝わる歴史、文化の日本遺産認定を目指し、昨年10月に菊池、山鹿、玉名3市と和水町及び県の機関で協議会が立ち上げられ、今月10日、文化庁に申請書が提出されました。

加えて、県北広域本部においては、九州中部大回廊の旗印を掲げ、有明、山鹿、菊池、阿蘇を結んで、懐の深い、魅力ある県北地域をつくり出そうと、さまざまな事業が推進されています。

私は、こうした取り組みは、まさに地方創生総合戦略に合致するものであり、その実現を支えるインフラストラクチャーとして、国道325号を初めとした幹線道路の整備が、より一層重要性を増すものと考えております。

私は、平成25年2月議会において、県北地域における横軸連携について、ハード面では県北地域を貫通する幹線道路の整備、ソフト面では広域観光の振興について質問し、知事より、今後とも国道325号の4車線化を重点的に取り組むとの答弁をいただきました。

知事が推進しておられる新4カ年戦略は、熊本に活力をつけるという目標に向かって、着々と華を咲かせつつあると感じますが、国道325号の4車線化は、県北地域全体に大きな華を咲かせるためには不可欠な幹であります。

前回の知事答弁以降、菊池地域の旭志工区において、4.2キロメートル区間の4車線化が供用開始になり、渋滞緩和などで沿線の経済活動に多大な効果が生まれております。

また、旭志工区に続く菊池工区は、今年度から着工され、山鹿地域においても、鹿本工区で工事が着々と進み、完成間近となっております。

しかし、全体からすればまだまだ道半ばであり、4車線化整備を引き続き加速し、はっきりと目に見える形で推し進めていただきたいと願っております。

そこで、現在取り組んでいる**国道325号の整備状況と今後の取り組みについて**、土木部長にお尋ねいたします。

〔土木部長猿渡慶一君登壇〕

◎土木部長（猿渡慶一君） まず、現在の整備状況についてお答えいたします。

国道 325 号は、山鹿市や菊池市、大津町など県北の各地域と阿蘇地域を結ぶ道路であり、県北の横軸として重要な幹線道路であると認識をしております。

このため、山鹿市から大津町間の4車線化整備に取り組んできており、これまでに菊池市の旭志から大津町にかけて9.2キロメートルの4車線化を完了しております。

現在、菊池市の菊池工区と山鹿市の鹿本工区の2つの工区で事業を実施しております。1つ目の工区ですが、菊池工区の3.6キロメートルにおいては、既に事業に必要な用地の約6割を取得し、今年度から工事に着手しております。

また、2つ目の工区ですが、鹿本工区の1.8キロメートルのうち1キロメートルにつきましては、山鹿市と菊池市にまたがる台工区、この工区はもう既に道路を広げておりますが、この工区の0.7キロメートルとあわせて、平成28年度中に4車線で供用開始できるよう、工事を進めているところです。

鹿本工区の残りの区間0.8キロメートルにつきましても、平成30年度の事業完了を目指して、重点的に取り組んでおります。

次に、今後の取り組みについてお答えをいたします。

県北地域の広域観光や産業活動を支えるためには、九州縦貫自動車道や国道3号などの縦軸と県北地域を横断する国道325号などの横軸のネットワークを強化しなければなりません。

そのためには、山鹿市内の渋滞を早期に緩和すべきであり、現在取り組んでいる鹿本工区から、まずは山鹿市中心方面に4車線化を延伸し、既存の道路に交通分散することが有効であると考えております。

県としましては、市街地を北側に迂回する山鹿市道杉方保田線までの早期の事業化に向けて、スピード感を持って取り組んでまいります。

〔淵上陽一君登壇〕

◆（淵上陽一君） 今後とも、早期事業化に向けて取り組んでいただきますようよろしくお願い申し上げます。2点要望を申し上げます。

まず1点目は、国道3号植木バイパスの整備促進についてであります。

本件につきましては、昨年2月議会における私の質問に対して、熊本市が国と連携して整備促進に取り組まれている、さまざまな機会を捉え、熊本市や周辺の市、町と連携して、県として植木バイパスの早期整備を求めてまいるとの答弁をいただいているところであります。

国が実施した交通センサス調査では、国道3号、植木町付近が、県内最悪の渋滞状況を示しておりますし、九州内の国が管轄する2車線国道の中で、いまだ改善されず、1日の交通量が3万台を超える区間は、国道3号、植木町区間以外ほとんどないのではないかという話を聞いております。

国道3号は、熊本市と県北地域の連携を担う重要な路線であり、植木バイパスの整備は、国道325号の整備同様、地方創生総合戦略を支えるインフラとして極めて重要であります。

加えて、平成28年度には、植木バイパスに接続し、熊本市中心部と結ぶ地域高規格道路熊

本西環状線花園工区の完成、供用開始も予定されております。

県におかれましては、国に対し、事業の促進、特にいまだ事業化されていない舞尾交差点から北側の植木バイパスⅠ工区の早期事業化の実現に向けた力強い働きかけをいただきますよう、ここに強く要望いたします。

2点目の要望は、菊池川流域の日本遺産に向けた取り組みについてであります。

昨年4月、日本遺産第1号として全国で18件が認定されましたが、その中には本県の人吉・球磨地域が含まれておりましたことは、まことにうれしいニュースでありました。

日本遺産は、我が国の文化、伝統を物語るストーリーを認定し、国内外への発信を通じ、観光振興と地域活性化を図ることを目的とする新しい制度であり、政府は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックまでに、全国100件程度を認定していく予定とのことであります。

そこで、県北地域においても、人吉、球磨に続けと、先ほど申し上げましたとおり、菊池川流域4市町村と県北広域本部がチームを組み、米づくりをテーマにしたストーリーで認定獲得に向けて頑張っておられるところであります。

農業県である本県での米づくりというテーマは、古代以来連綿と続いてきた流域のさまざまな魅力を伝えるすばらしいストーリーになるものと大いに期待をしております。

私たちは、日本遺産認定を勝ち取ることが、低迷している菊池川流域の観光を再生し、県北地域全体の活気をつくり出すための何よりの原動になると信じ、心から期待しております。

知事を初め県におかれましては、地元と力を合わせ、菊池川流域の日本遺産認定を獲得できますよう、最大の御支援をいただきますよう、ここに要望いたします。

きょう用意していた質問は、これで終わるわけであります。

ことしのえとは、ひのえさるというえとであるそうでありまして、ひのえさるは、しっかりと準備していたものが形となり、花を咲かせる年ということであります。蒲島知事にとりまして、輝かしい1年になりますことを心から祈念をいたしまして、私の質問を終わらせていただきます。

最後まで御清聴ありがとうございました。